

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」  
**モデルプログラム（2017年度版）を活用した授業・研修事例**  
**支援員の養成・研修 No.2**

**モデルプログラム検証 カリキュラム（実施計画 細案（1回分））**

**実施団体名** 岐阜県立加茂高等学校 **定時制**

養成・○研修 / 基礎・専門・○支援員（該当するものに○）

★参照したモデルプログラムNO.（報告書 pp. 207-244） 下線：内容・項目（pp. 72-76）

日時・場所	2018年12月22日(土)14:00~16:00・岐阜県立加茂高等学校定時制		
実施団体・機関	岐阜県立加茂高等学校		
研修・授業名	加茂高等学校定時制 教職員研修会		
受講者	・人数:15名 ・受講者の立場:加茂高等学校定時制教職員、可児市国際交流協会さつき教室支援員 ・年齢層:20代(7)名 30-40代(5)名 50代(1)名 60歳以上(1)名 未回答(1)名 ・その他: 可児市国際交流協会関係者(2)名、講師通訳者(1)名		
演題・テーマ☆	外国籍生徒に対する教育相談 ☆研修内容（報告書 pp. 72-76）を反映		
到達目標	・外国籍生徒に対するカウンセリングにおいて配慮する点を、具体例を通して理解できる。		
活動展開（120分）		★ 形態	留意点
<b>活動1 外国籍の人たちのカウンセリングに関する講義（40分）</b>			
外国籍生徒に対するカウンセリング概論 講師：Ms. April N. Morito 1 講師紹介 2 講話を聞く。 外国籍生徒のカウンセリングにおいて配慮する点や外国籍生徒の心理的特徴などを聞く。	⑥ ⑧ ⑪ ⑫	講義	・事前に本校の様子を講師に伝える。 （親子関係、家族の状況、子どもの文化適応の特徴、生徒の心的文化変容、文化間移動する子どものアイデンティティ、生育環境、等の特徴について触れながら説明してもらう。）
<b>活動2 グループワークによる意見交流・質問対応（80分）</b>			
<b>導入：5分</b> 1 外国籍生徒との関わりの中で、自身が直面している問題や解決したい悩み、検討したい事例を考える。 2 アイスブレイキング（自己紹介） <b>展開：75分（6に40分を確保）</b> 3 悩みや問題の交流、共有 1人ずつ順に日頃の指導の中で自身が抱えている問題や直面している問題を発表していく。 4 発表して出てきた悩みの中で、今回、特に解決したいことを1つに絞る。 5 4で絞った事項について、各グループで順に発表していく。 6 5で各グループから発表された悩みや問題について、講師より指導、助言をいただく。 <b>まとめ：10分</b> 7 講師より本日のまとめ。 外国籍児童生徒たちの心理的負担を軽減し、支援するために私たちにできることについて。 8 研修後アンケートの回答	⑥ ⑧ ⑪ ⑫       ⑫	話し合い 発表  講義  講義	・事前に本時の研修内容を参加者に伝えておき、自分の抱えている問題点を整理しておいてもらう。  ・1グループ3～4人程度で構成。（加茂高校教諭と可児市国際交流協会支援員との人数バランスに配慮する。） ・1人3分程度で発表していく。